

## 特別支援学級における教育課程と個別の指導計画

---

茨城県教育研修センター



特別支援教育課

指導主事 兼巻 照美

指導主事 菅間 健一

### はじめに

---

「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）」（令和4年4月27日文科科学省）を受け、茨城県においても、特別支援学級及び通級による指導について見直すことになりました。

これまで「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」として、特別支援学級に在籍する児童生徒が、交流及び共同学習として通常の学級（以下「交流学級」という。）で学習を行ってきました。

しかし、交流学級において、児童生徒が主体的に学習に取り組み、充実した時間を過ごすことができているでしょうか。「交流」することだけが先行してしまっていたかもしれません。特別の教育課程や特別支援学級での学習、個別の指導計画等について、今一度振り返る必要があると考えます。

## はじめに

---

本県においては、新任特別支援学級・通級指導教室担当者が毎年増加傾向にあり、今年度の受講者は500人を超えました。これには、特別支援学級や通級指導教室の増加だけでなく、担当する教師が早いサイクルで入れ替わっている現状も背景にあると考えます。

これらのことから、「特別支援学級における教育課程と個別の指導計画」について、初めて担当する教師でもスライドを見るだけで基本や要点が分かりやすくなるよう本資料を作成しました。

10年ぶりに文部科学省が行った「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（令和4年12月）」では、通常の学級に在籍する小・中学生の8.8%が「学習面又は行動面で著しい困難を示す」ということが明らかになりました。前回の調査と比べると2.3ポイントの増加です。

## はじめに

---

今や特別支援教育は「特別」なものではありません。どの学年、学級、校種においても特別な教育的支援を必要とする児童生徒が存在しています。

資料に目を通していただき、特別支援教育理解推進の一助となれば幸いです。

令和5年3月

茨城県教育研修センター  
特別支援教育課

指導主事 兼巻 照美  
指導主事 菅間 健一

## 本日のテーマ

# 特別支援学級における教育課程と個別の指導計画



花子先生

中学校  
自閉症・情緒障害特別支援学級担任 2 年目  
2 学年B・C組 国語科担当

一緒に考えていきます。

## 特別支援学級における教育課程

## 特別の教育課程の編成について

障害のない児童生徒  
の教育課程

必ずしも適当でない場合がある



特別の教育課程

- 自立活動
- 各教科の目標や内容を下学年へ
- 各教科を特別支援学校(知的障害)の各教科に替える

実態に応じた教育課程の編成



小・中学校等における特別支援学級の教育課程編成ガイド【改訂第4版】 令和4年11月17日 茨城県教育委員会

## 特別の教育課程の編成について

特別の教育課程

- 自立活動
- 各教科の目標や内容を下学年へ
- 各教科を特別支援学校(知的障害)の各教科に替える

実態に応じた教育課程の編成



### Point

なぜ選択したのか、理由を明らかにしながら教育課程を工夫する

- ・保護者等に対する説明責任
- ・指導の継続性を担保する観点
- ・教育課程を評価し改善する

小・中学校等における特別支援学級の教育課程編成ガイド【改訂第4版】 令和4年11月17日 茨城県教育委員会

# 特別の教育課程の編成について 手続きの例

## 習得状況や既習事項の確認手順(目標及び内容)

### 小・中学校学習指導要領 各教科

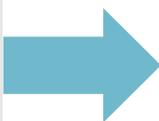
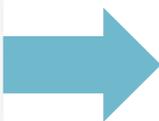
- ①当該学年
- ②当該学年より前の各学年

#### 要検討

知的障害があり困難又は不可能

### 特別支援学校(知的障害)小・中学部の各教科の取扱い **Point**

③



小学校卒業

中学校卒業

育成を目指す資質・能力は何か?

在学期間中に提供すべき教育内容は何か?

④各教科等の目標及び内容の系統性を踏まえる

小・中学校学習指導要領解説総則編 平成29年7月 文部科学省

小・中学校等における特別支援学級の教育課程編成ガイド【改訂第4版】 令和4年11月17日 茨城県教育委員会

# 特別の教育課程の編成について 手続きの例

## 習得状況や既習事項の確認手順(目標及び内容)

### 小・中学校学習指導要領 各教科

- ①当該学年
- ②当該学年より前の各学年

#### 要検討

知的障害があり困難又は不可能

### 特別支援学校(知的障害)小・中学部の各教科の取扱い **Point**

③



特別支援学校の各教科って何ですか?

「各教科等を合わせた指導」も、実は、よく分かっていません。

「自立活動の指導」も行っていますが、今の指導でいいのでしょうか?



花子先生

④各教科等

小学校学習指導要領解説総則編 平成29年7月 文部科学省

小・中学校等における特別支援学級の教育課程編成ガイド【改訂第4版】 令和4年11月17日 茨城県教育委員会

# 各教科等を合わせた指導とは

## 各教科等を合わせた指導とは

## 各教科等を合わせた指導とは

各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動  
全部又は一部

- ・ 各教科等の内容が未分化に含まれている総合的な生活活動  
そのものを教育内容とする指導の形態
- ・ 自然で実際的な「本物の生活」そのものを学習活動として  
位置づける指導形態

### 知的障害教育の中核的指導形態



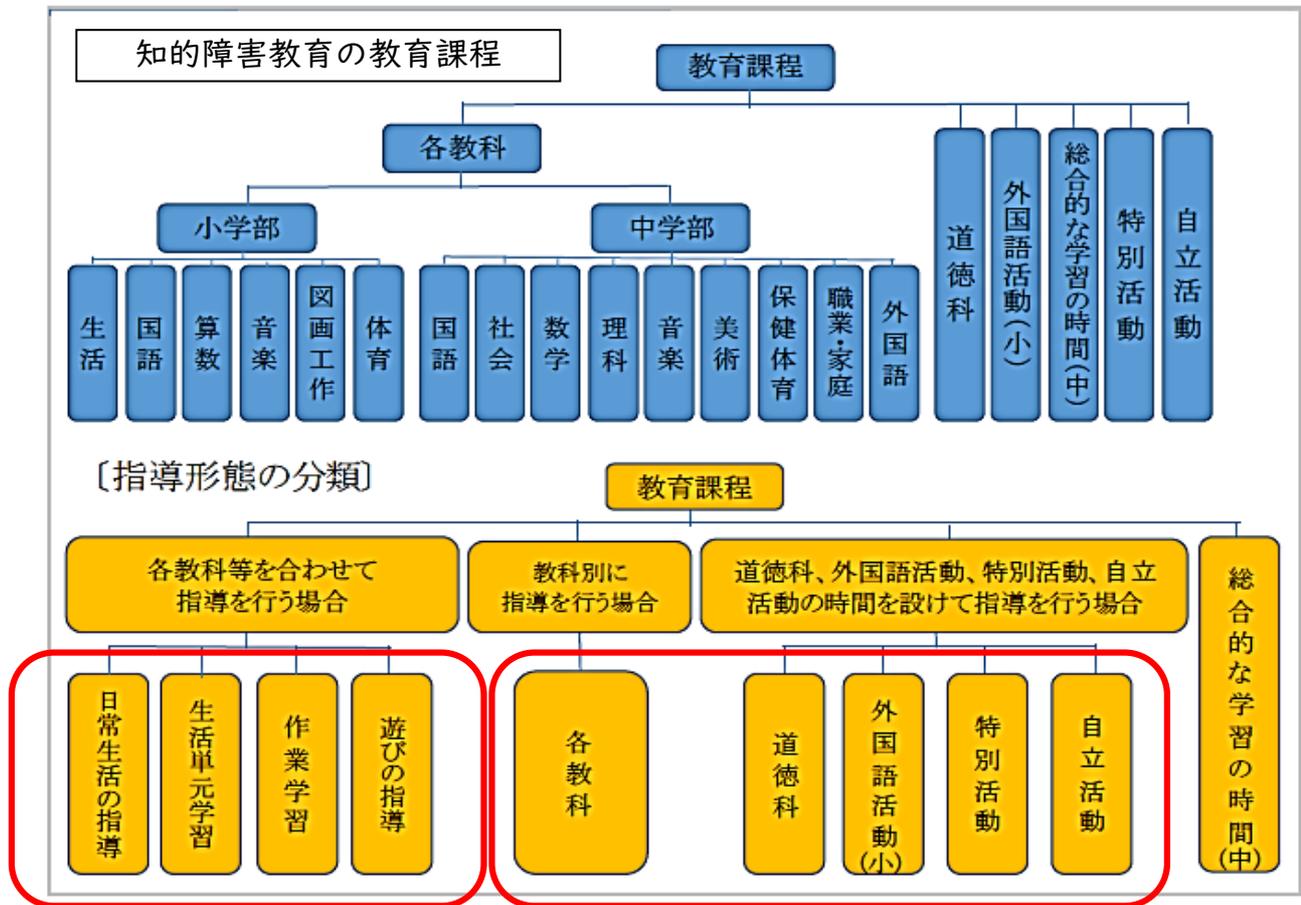
日常生活  
の指導

遊びの  
指導

生活単元  
学習

作業学習

# 各教科等を合わせた指導の法的根拠



## 各教科等を合わせた指導とは

### 知的障害のある児童生徒の特性・実態

学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しい

成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていない

実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする継続的、段階的な指導が重要

抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的

## 各教科等を合わせた指導

つまり

- ・ 实际的・具体的な内容の指導によって
- ・ 成功体験を豊富にし、
- ・ 主体的に活動に取り組む意欲を育てる

# 教科学習と各教科等を合わせた指導

## 教科学習

- ・「子供の発達」と「指導すべき領域（内容）」を整理して、体系的に学ぶことができる。
- ・子どもの思考過程を大切にしながら論理的に学習を積み上げ、目標とした内容の確実な習得を目指す。



## 各教科等を合わせた指導

- ・総合的な生活活動を学習内容とし、生活上のやりがいや手応えにつながる学習。
- ・生活上の営みの遂行を目標として、その活動に主体的に取り組み、その目標を首尾よく達成することを目指す。
- ・多様な学習内容が实际的・総合的に身に付く。



良さ

強み

魅力



子供たちに「どのような力を身に付けたいか」によって設定する

## 各教科等を合わせた指導の特徴と留意点

日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動について、知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえながら計画的に指導するものである。

日常生活の指導は、生活科を中心として、特別活動の〔学級活動〕など広範囲に、各教科等の内容が扱われる。それらは、例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排せつ、食事、清潔など基本的な生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において、習慣的に繰り返される、必要で基本的な内容である。



留意点として・・・

(ア)日常生活や学習の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で取り組むことにより、生活や学習の文脈に即した学習ができるようにすること。

➡ つまり、生活の流れに沿わない形での指導は望ましくない。

P31



スキルの単なる指導と誤解されがち・・・

**本質は子供の日常生活の充実・高まり**

QOL（生活の質、豊かさ）を図ることが目的のため、実際の生活場面を毎日繰り返し取り組み、指導することで、その充実・高まりを図る。

## 遊びの指導

遊びの指導は、主に小学部段階において、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動を育み、心身の発達を促していくものである。

特に小学部の就学直後をはじめとする低学年においては、幼稚部等における学習との関連性や発展性を考慮する上でも効果的な指導の形態となる場合がみられ、義務教育段階を円滑にスタートさせる上でも計画的に位置づける工夫が考えられる。

場や遊具等が限定されることなく、児童が比較的自由に取り組むものから、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定の条件を設定し活動するといった比較的制約性が高い遊びまで連続的に設定される。



子供たちが主体的に取り組むためには・・・！？

P32



自由遊び

課題遊び



➡ どちらにもよさも課題もある。

漫然とではなく、子供が明確な活動に、目的意識をもって取り組んでいることが大事。

魅力的な遊びのテーマ

目一杯遊べる状況づくり

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

とりわけ、作業学習の成果を直接、児童生徒の将来の進路等に直結させることよりも、児童生徒の働く意欲を培いながら、将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要である。

年間を通じて、ほぼ同じ活動を繰り返し行うことが多い。



## 作業学習における特徴的な継続性

実社会の仕事の特徴でもある。



P33



**販売会や地域に貢献する**など、働く生活に関わる目標を設定し、子供たちが意欲的に取り組めるようにする。

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。

生活単元学習では、広範囲に各教科等の目標や内容が扱われる。

生活単元学習の指導では、児童生徒の学習活動は、実際の生活上の目標や課題に沿って指導目標や指導内容を組織されることが大切である。

### 「生活上の目標や課題に向けて取り組む」

・各教科等の内容を含んでいるが、目標はそれらの何かを習得することではなく、実際の生活の中での目標や課題ということになる。

### 「一連の活動を組織的・体系的に経験する」

・生活単元学習は、生活を「単元化」する学習。様々な活動を散発的にではなく、組織的に経験できるようにする。



P32



### 「実際の・総合的に学習する」

・「実際の」というのは、実生活で使える形で力が身に付くということ。「総合的」というのは、単元を通して様々な力が身に付いていくということ。

# 生活単元学習における 指導内容の設定について

「生活上の目標や課題に向けて取り組む」ために

- ① やりがいのあるテーマ
- ② 手応えのある活動
- ③ テーマの成就の満足感・成就感
- ④ 仲間と共にする生活

本気になれる生活上のテーマ  
「**現実度**」を設定する

「できる状況づくり」 = 「精いっぱい取り組める状況」  
「首尾よく成し遂げられる状況」

「教えて身に付く」「学んで身に付く」というより、  
「力を発揮して身に付く」という考え



数週間程度の長期にわたってのまとまりや発展性のある活動を  
設定することが望ましい

# 「生活上の目標や課題に向けて取り組む」ために

## 例) 生活単元学習の「生活上の目標」「課題」

「カードに招待状を書くことができる」  
「おつりの計算ができる」  
「駅までの距離を調べることができる」



総合的ではない

生活のために学ぶべき  
学習目標や学習課題

教科別の指導で

## 例) テーマのある生活

「プレイルームで遊ぼう」  
「クリスマスパーティーをしよう」  
「学校祭を盛り上げよう」



人が生活していく上でやりがいや  
手応えに通じる目標や課題設定を！

# 「生活上の目標や課題に向けて取り組む」ために

## 買い物の指導の「具体的」と「現実度」

### 目標

「おつりがなるべくないように、1000円以内で買い物をしよう」

1. 座学
2. 模擬貨幣
3. 本物の貨幣での学習
4. 校外の店での学習

物理的環境としては  
「具体的」だが・・・



買い物という活動に、「意味」や「必然性」をもたせ  
られていなければ、「現実度」はない

目標 「〇〇のために、買い物をしよう」

# 「一連の活動を組織的・体系的に経験する」ために

遊ぶ単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部段階で、遊びをテーマにした単元</li> <li>・オリジナルの遊び場を設定して思い切り遊び込む</li> <li>・近隣の公園などに出かけて遊び込む</li> </ul>
ものづくり単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりは工程の多様化が図れ、多様な子どもが力を合わせて活躍することが容易</li> <li>・生活年齢、その時点での生活の様子や必要性などで、様々な単元設定が可能</li> </ul>
働く単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期に入った生徒には、青年らしく、存分に働ける活動を</li> </ul>
出かける単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行、宿泊学習</li> </ul>
行事の単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事：運動会や文化祭、大規模で一体感のある単元</li> <li>・季節や地域の行事・・・季節感や地域のよさを味わう</li> </ul>
劇や演奏の単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会などの行事と絡める</li> <li>・みんなに見てもらおうという緊張感</li> <li>・全員が活躍できることに努める</li> </ul>



# 「实际的・総合的に学習する」ために

ハロウィンでクッキーを作って、友だちにプレゼントしよう

社会：お店の仕事「働く人」について知る。

## ○ 近所のクッキー屋さんに行く。（校外学習）

数学：購入するクッキー代の代金を計算する

国語：お店の人に美味しく作るコツをインタビューする。

## ○ 作り方を調べる。

国語：本やパソコンでクッキーの作り方やハロウィンについて調べる。

## ○ ラッピングのデザインを考えよう。

美術：ハロウィンにあったラッピングを考える。

数学：袋、クッキーなどの適切な数やサイズを考える。

## ○ 材料を買いに行く。（校外学習）

数学：お店までの、バスの時刻や移動までの時間を調べる。

材料の金額を電卓で計算する。

道徳：公共のルールについて知る。

## ○ クッキーを作る。

数学：材料の重さを計る

家庭：レシピを見て調理をする。

調理道具を安全に使う。

美術：ハロウィン会場を作る



## ○ ハロウィンパーティーを開く。

国語：招待状を作る

# 生活単元学習における学習評価

各教科等を合わせた指導で実施する内容は「各教科等」の内容が基になっている。

つまり

学習の達成状況の評価を行う場合、何の教科の内容が含まれているかが把握できていれば、各教科等の目標及び内容に照らした評価、観点別評価をすることは可能である。

重要なのは

「生活単元学習」本来の生活上の目標が達成されていたかどうかを先に把握した上で、その内容を観点別に見ていくことが大切。



一つの授業の目標を観点から多面的に見る

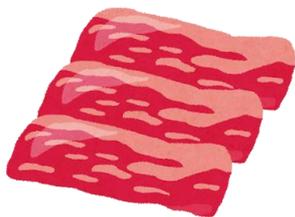
# 生活単元学習における学習評価

カレー（生活単元学習）

総合的に・・・

「おいしい！」

カレーの評価（観点別）：味、見た目、栄養素



肉（国語）



玉ねぎ（数学）



人参（図工）

もしも育ちの悪い玉ねぎ（数学）があったら・・・

玉ねぎ（数学）について教科別に育ててあげる必要がある

# 自立活動の基本と実際

自立活動の指導は、**個々の**幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、**個々の**幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に即して指導を行うことが基本である。そのため、自立活動の指導に当たっては、**個々の**幼児児童生徒の的確な実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって**個別に**指導目標（ねらい）や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画が作成されている。

文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）p23

## 自立活動とは

### 調和的発達

#### 各教科、道徳科、外国語活動、 特別活動、総合的な学習の時間

小・中学校等の教育は、幼児児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められている。その教育内容は、幼児児童生徒の発達の段階等に即して選定されたものが配列されており、それらを順に教育することにより人間としての調和のとれた育成が期待される。

#### 全ての児童に指導



### 調和的発達の基盤

#### 自立活動

個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導

#### 一人一人に応じた指導



# 学校教育活動全体を通じて行う指導の例

例) 自分の意思を伝えられない

落ち着きのなさ



情緒の不安定さ

背景として・・・ 相手との信頼関係が育っていない

児童が好む活動を共にしながら、基本的信頼感を醸成しつつ、子供の意思の表出を育む。

という方向性・・・

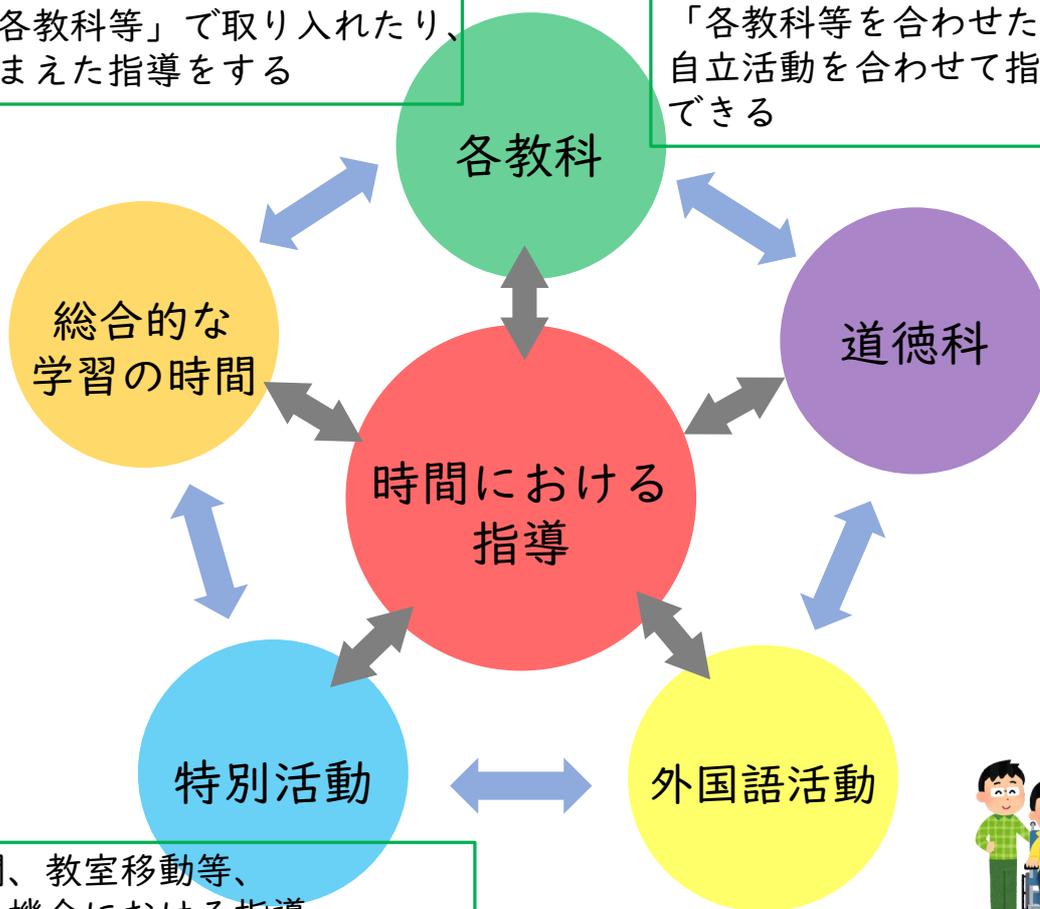
「自立活動の時間における指導」の中だけでは難しく、改善のためには学校教育活動全体を通じた指導が必要

参考：よく分かる！自立活動ハンドブック！ 下山 直人

## 自立活動の指導の場

「自立活動の時間における指導」の成果を「各教科等」で取り入れたり、それを踏まえた指導をする

効果があると考えられる場合は、「各教科等を合わせた指導」として、自立活動を合わせて指導することもできる



休み時間、教室移動等、あらゆる機会における指導



# 自立活動の指導の特色

個別の指導計画に基づく自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが多いが、**指導目標（ねらい）を達成する上で効果的である場合には、**幼児児童生徒の集団を構成して指導することも考えられる。しかし、自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、**最初から集団で指導することを前提とするものではない**点に十分留意することが重要である。

文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）

## 活動ありきの自立活動



ゲームなどの活動ありきで、後付けで自立活動の6区分27項目をあてはめてしまっている。

## 集団指導が前提の自立活動

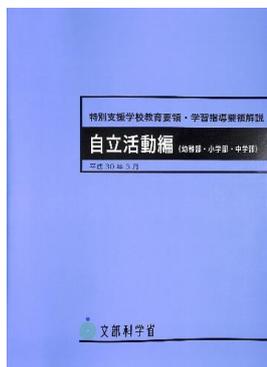


困難の背景が異なるのに、コミュニケーションと称して、同じテーマに対して同じ支援で話し合い活動をする。

## 自立活動の内容とその取扱いについて

- ・ **人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素**
- ・ **障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素**

代表的なものを項目として  
6つの区分の下に分類・整理したもの



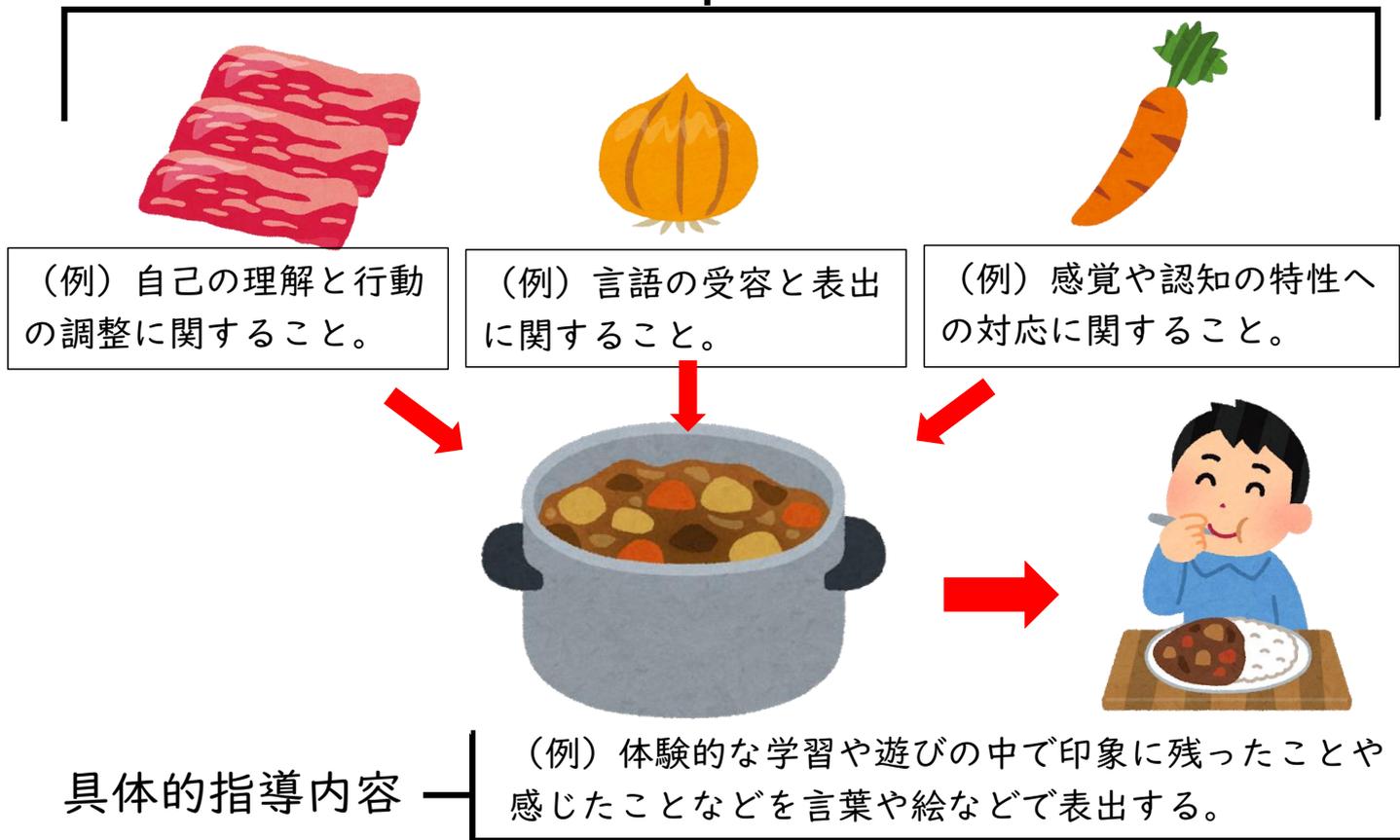
1 健康の保持	5項目
2 心理的な安定	3項目
3 人間関係の形成	4項目
4 環境の把握	5項目
5 身体の動き	5項目
6 コミュニケーション	5項目

### 6区分27項目

区分に示されている項目の中から個々の幼児児童生徒の実態に応じて**必要な項目を選定し、相互に関連付けて指導内容を設定する。**

# 自立活動の内容設定

## 学習指導要領に示された内容



知的障害特別支援学校の自立活動の指導 下山 直人

## 自立活動の指導課題を抽出する

子供が抱える「学習上、生活上の困難はありますか？」

日常生活や学習場面で見られる困難を、自立活動の指導課題として抽出するべく、**困難が生じている背景要因**を考える。



自立活動の授業でその困難を改善するためには、困難が生じている背景や要因を分析し、指導課題を抽出することが重要。

分析がしっかりできていないと、表面化している困難に対して一つずつ改善を試みるといった「対症療法的」な指導になりがち。

# 子どもの課題の背景を探る（冰山モデル）

Aくんの課題  
(例) 文字が書けない

認知面

学習環境

ワーキング  
メモリー

身体面

障害特性

家庭環境

生活リズム

児童生徒の課題の背景はどこにあるか探る。

# 子どもの課題の背景を探る（冰山モデル）

Bさんの課題  
(例) 文字が書けない

表面上見えている  
困難さは同じ

認知面

学習環境

ワーキング  
メモリー

身体面

障害特性

家庭環境

生活リズム

表面上に見える課題は同じでも、その背景はそれぞれ異なる

# 子どもの課題の背景に応じた学習内容の設定

困難の背景が変われば、支援の方法も変わる。



字をうまく書くことができない

不器用で早く上手に書けない

形を正しく捉えられなくて書けない

不注意で正しく書けない

## 学習内容

- ・空書きでの練習
- ・○を書く練習

## 支援方法

- ・書きやすい筆記具
- ・分量の調整

## 学習内容

- ・偏と旁を分けて覚える
- ・言葉で覚える
- ・視覚認知の練習

## 支援方法

- ・枠を大きくする
- ・手元で見せる

## 学習内容

- ・間違い探して覚える
- ・ICTの活用

## 支援方法

- ・集中できる環境
- ・分量の調整

## 自立活動の指導の課題

「何を」指導するのか → 「指導すべき課題」の明確化

今までの課題として・・・

- ・実態把握、指導目標の設定、指導項目の選定、具体的な指導内容の設定といった各プロセスのつながりについて見えづらい。
- ・子供たちの実態把握から導かれた指導目標と到達状況が乖離していることがある。
- ・指導内容に対して、子供が受け身的になっていないか。子供にとって訓練的になっていないか。



実態把握から指導目標に至る過程に問題がある

指導すべき課題に至る過程  
プロセスが重視されている



花子先生

各教科等を合わせた指導についての基本が分かりました。

自立活動の指導の在り方についても、もう一度考えてみます。

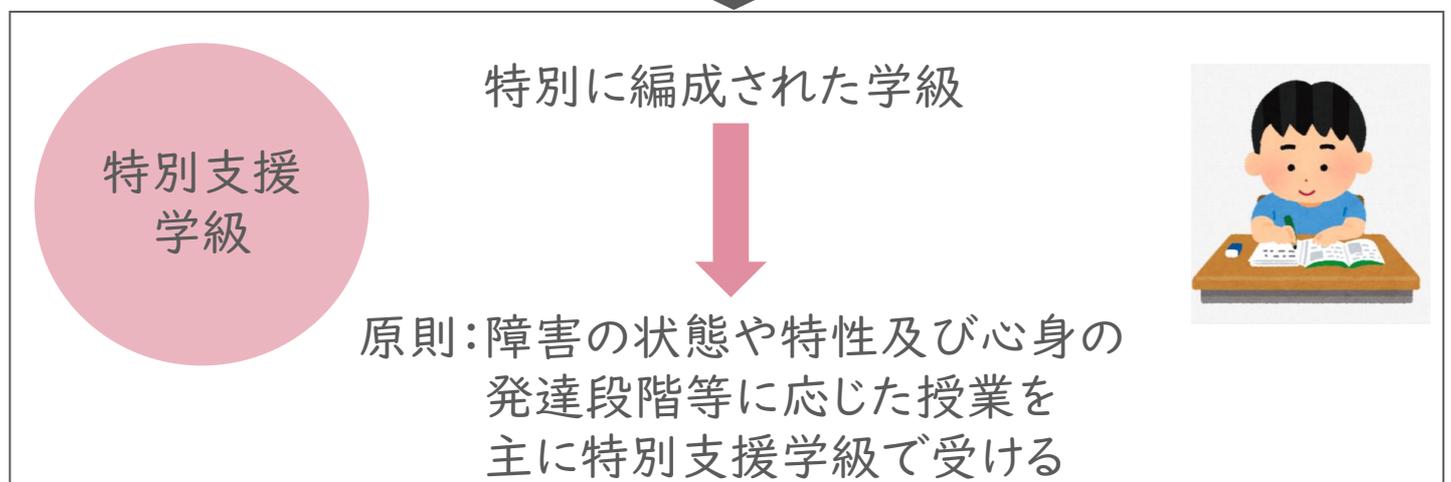
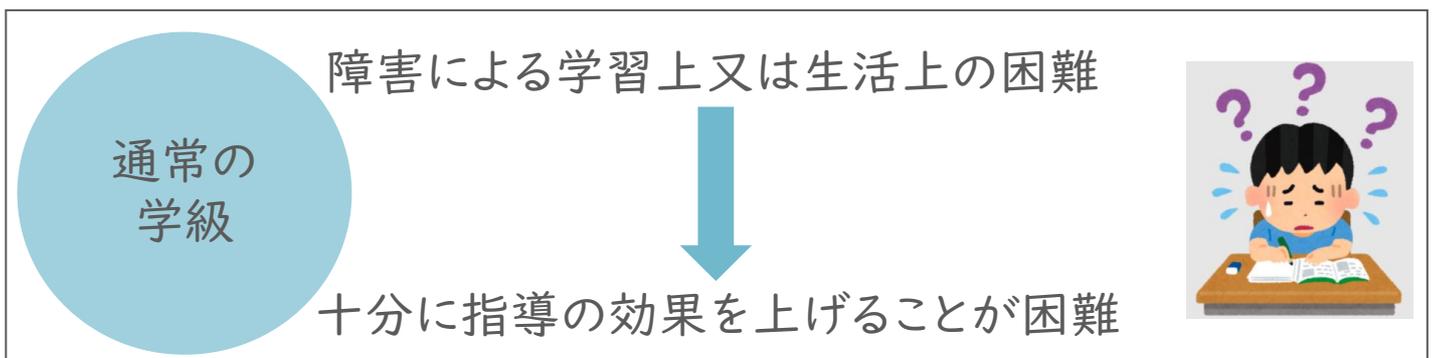
自閉症・情緒障害特別新学級にも知的障害のある生徒もいます。  
中度の知的障害のある生徒の場合、特別の教育課程を編成する時に、特別支援学校の学習指導要領なども参考にしたいです。

でも、今特別支援学級で半分以上の時間、授業を行うようにとされています。

国語、数学、自立活動以外は、交流学級で学んでいることも多かったと思うのですが？



## 特別支援学級における指導



# 交流及び共同学習

通常  
の  
学級



- ・授業内容が分かる
- ・学習活動に参加している実感・達成感

Point 充実した時間



特別支援  
学級

原則：障害の状態や特性及び心身の発達段階等に応じた授業を主に特別支援学級で受ける



原則：目安 半分以上／週の授業時数

小・中学校等における特別支援学級の教育課程編成ガイド【改訂第4版】 令和4年11月17日 茨城県教育委員会

# 交流及び共同学習

特別支援  
学級

原則：障害の状態や特性及び心身の発達段階等に応じた授業を主に特別支援学級で受ける



原則：目安 半分以上／週の授業時数

○ 次年度 学びの場の変更

通常  
の  
学級

↑

特別支援学級

段階的に  
交流及び共同学習の時間を  
増やしている

Point

通常  
の  
学級

↑

特別支援学級

大半の時間を通常  
の学級で  
学んでいる

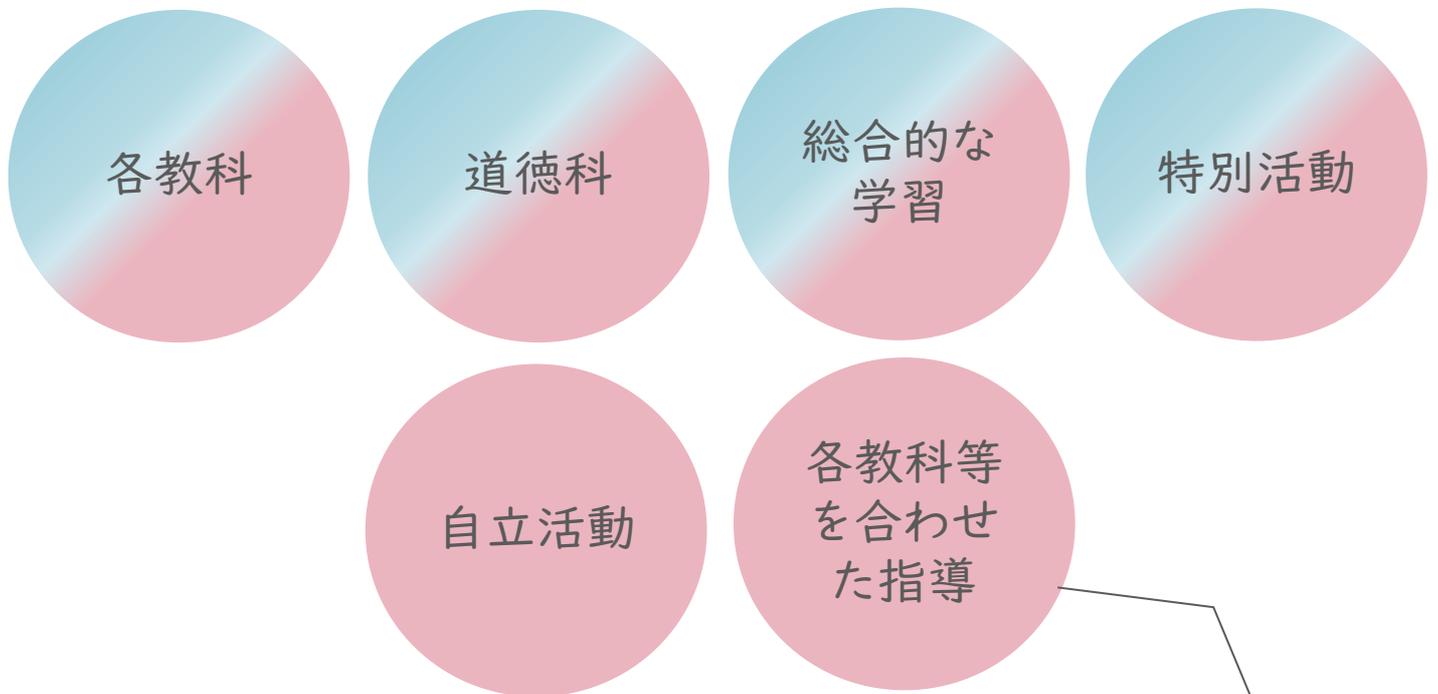
要検討

通常  
の  
学級

通級による指導

小・中学校等における特別支援学級の教育課程編成ガイド【改訂第4版】 令和4年11月17日 茨城県教育委員会

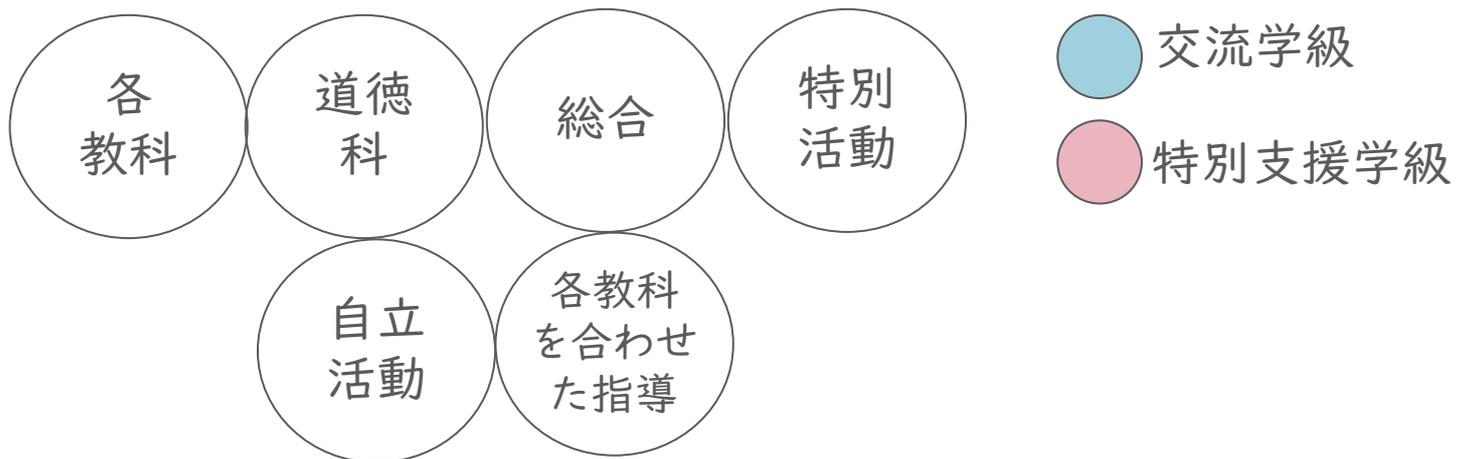
## 特別支援学級の教育課程



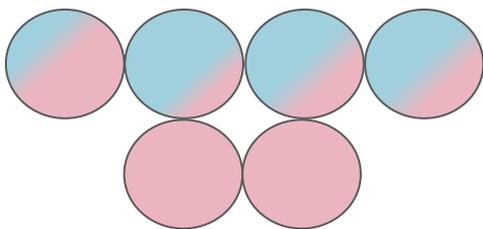
- 交流及び共同学習を行っている通常の学級（以下「交流学級」）
- 特別支援学級

- (1) 日常生活の指導
- (2) 遊びの指導
- (3) 生活単元学習
- (4) 作業学習

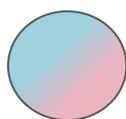
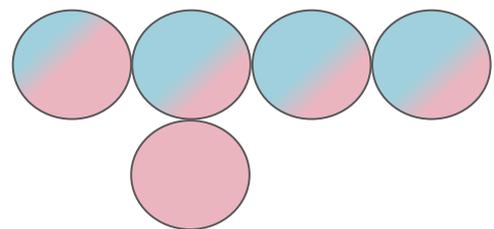
## 特別支援学級の教育課程



### 知的障害特別支援学級



### 自閉症・情緒障害特別支援学級



どのように決めたらいいのか

## 当該学年の各教科、道徳科、総合、特活+自立活動

中学2年Aさん



- ・5歳の時に自閉症、ADHDと診断、知的障害なし
- ・文字の読み書きに困難があり、時間がかかる
- ・言葉の意味理解に偏り
- ・理科が得意で実験も好き
- ・書く活動が重なるとストレス→突然プリントを破る、大きな声で叫ぶ
- ・自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍
- ・高校進学を希望

実態を踏まえた教育課程

\*は交流及び共同学習

各教科									道徳科	総合	特別活動	自立活動
国語	社会	数学	理科*	音楽*	美術*	保健体育*	技術・家庭*	外国語*				
			*	*	*	*	*	*				

参考「特別支援学級 教育課程編成ガイドブック」平成31年1月 群馬県総合教育センター

## 自閉症・情緒障害特別支援学級 (例) ASDと知的障害の程度

中学2年Aさん



知的障害なし

中学2年Dさん



軽度知的障害あり

中学3年Eさん



知的障害なし

# 自閉症・情緒障害特別支援学級 (例) ASDと知的障害の程度

中学2年Aさん

3年Eさん



知的障害なし

中学校学習指導要領  
各教科 当該学年

+ 自立活動

必要に応じて教科指導において  
自立活動の内容を付加

2年Dさん



軽度知的障害  
あり

中学校学習指導要領  
各教科  
当該学年+当該学年より前の各学年

+ 自立活動

体育では集団での活動が多い。  
総合的な学習の時間では取り組むべき課題へ  
の見通しがもちにくい場合もある。

参考「自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実際的な研究—小・中学校における特別支援学級を中心に—」  
平成22年3月 国立特別支援教育総合研究所

# 自閉症・情緒障害特別支援学級 (例) ASD/ADHD/知的障害



対人関係が苦手  
【国語】  
説明文の読解得意  
心情理解不得意



じっとしているのが苦手  
【国語】  
身体で表現得意  
集中できない

## Point

子供の特性によっても学ぶべき内容が  
違ってくるのですね。  
学級編成やグループ分けも、その子の実  
態や特性を考慮することが大切です。



花子先生

## 下学年の各教科、道徳科、総合、特活、外国語活動+自立活動

小学4年Bさん



- ・友達との関係は良好
- ・話し言葉による意思疎通では表面上困難はない
- ・国語や算数の学習での遅れ
- ・不器用
- ・2年生の2学期から登校渋り
- ・軽度の知的障害があることが判明
- ・3年生から知的障害特別支援学級に在籍

### 実態を踏まえた教育課程

\*は交流及び共同学習

各教科							道徳科	総合	特別活動	外国語活動	自立活動	+	生活単元学習
国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	体育							
小3		小3	*	*	*	*		*					

参考「特別支援学級スタート応援ブック 学級経営編 第3版」平成31年3月茨城県教育研修センター  
「特別支援学級 教育課程編成ガイドブック」平成31年1月 群馬県総合教育センター

## 知的特別支援学校の各教科、道徳科、総合、特活+自立活動

小学1年Cさん



- ・マイペースで、納得するまでじっくり取り組む
- ・中程度の知的障害
- ・食事や着替え、排せつなどの身辺処理に一部介助を必要とすることも
- ・行動のきっかけをつかめないと、その場にとどまって動こうとしないことがある
- ・幼稚園でも友達と一緒に生活できないことがあった
- ・知的障害特別支援学級に在籍

### 実態を踏まえた教育課程

\*は交流及び共同学習

は知的特別支援学校の各教科

各教科						道徳科	特別活動	自立活動	+	生活単元学習	日常生活の指導
生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育						
*			*	*	*						

参考「特別支援学級スタート応援ブック 学級経営編 第3版」平成31年3月 茨城県教育研修センター  
「特別支援学級 教育課程編成ガイドブック」平成31年1月 群馬県総合教育センター

# 知的障害特別支援学級 時間割編成例

上段:1年生

下段:4年生

\*交流学級で学習 ☆特担が一緒



	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導 (朝の会で15分)			国語	算数
	国語	国語	国語		
2	算数	算数	算数	算数	国語 *体育
3	*生活 外国語活動	生活単元	*☆図工 *音楽	*生活 *図工	*生活 社会
	*音楽 *体育		*☆図工 *体育	自立活動 *図工	道徳 *理科
5	学活 *理科	*体育 社会	日常生活の指導 *理科	*音楽 *☆総合	*体育 *☆総合
		道徳	社会	*学活	自立活動

モジュールで設定

各教科を带状にして規則性を

異学年が交流学級で学習する時は個別指導

## Point

全校の時間割作成時に、このような学習スケジュールを前提にコマ組みを考えるとよい。特別支援学級を後回しにすると、特別支援学級の時間割を組むことが困難になる。

参考「新版『特別支援学級』と『通級による指導』ハンドブック」田中裕一監修 全国特別支援学級・通級指導教室設置校長協会編著  
令和元年8月

「特別支援学級教育課程編成ガイドブック」群馬県総合教育センター 平成31年1月

# 知的障害特別支援学級 時間割編成例

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導 (朝の会で15分)			国語	算数
	国語	国語	国語		
2	算数	算数	算数	算数	国語 *体育
3	*生活 外国語活動	生活単元	*☆図工 *音楽	*生活 *図工	*生活 社会
	*音楽 *体育		*☆図工 *体育	自立活動 *図工	道徳
5	学活 *理科	*体育 社会	日常生活の指導 *理科		
		道徳	社会		

日常生活の指導を「帯」でとることで、学習内容の定着が図りやすいと思います。

生活単元学習を2時間続きにすると、様々な活動ができそうですね。



花子先生

複数学年の児童生徒が在籍することが多いので、できるだけ同じ教科になるようにするといいのですね。そのためには、通常の学級の時間割も併せて編成する必要がありますね。



ところで1時間目から6時間目以外は、子供達はどのように過ごしていますか？

## 知的障害特別支援学級 時間割編成例

		火	水	木	金
小学1年Cさん		生活の指導 (朝の会で15分)		国語	算数
		国語	国語		
3	*生活				
	外国語活				
4	*音楽				
	*体育				
5	学活				
	*理科				
6					
		道徳	社会	*学活	自立活動

僕はいつも知的学級に登校するよ。

朝の会から2時間目まで、帰りの会も知的学級。

給食もそうだったけど、2学期からは交流学級のみんなと食べる時もあるよ。

## 知的障害特別支援学級 時間割編成例

		火	水	木	金
小学4年Bさん					
					
3	*生活				
	外国語活				
4	*音楽				
	*体育				
5					
6					
		道徳	社会	*学活	自立活動

僕は友達と関わるのが大好き。  
友達もいる。  
給食は交流学級で食べるよ。

でも、朝自習は特担の先生と一緒に勉強した方が分かる。だから、知的学級にいるよ。

### Point

子供の実態に応じて、指導の場を考えることが大切なんですね。



花子先生

# 特別支援学級における個別の指導計画

## 個別の教育支援計画 個別の指導計画

### 個別の教育支援計画

- ・教育、医療、福祉、労働等の関係機関の連携
- ・生涯にわたる継続的な支援体制
- ・個別の支援計画の中で、特に教育機関が中心となって作成するもの

### 個別の指導計画

- ・個々の児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために、学校で作成されるもの
- ・教育課程を具体化
- ・指導目標、指導内容及び指導方法を明確に

## 小学校 国語科における特別支援教育に関する記述（一部抜粋）

困難さの状態 指導上の工夫の意図 手立て

・文章を目で追いながら音読することが困難な場合には、

自分がどこを読むのかが分かるように  
教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、  
行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、

語のまとまりや区切りが分かるように  
分かち書きされたものを用意すること、  
読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用すること

などの配慮をする。

小学校学習指導要領解説国語編平成29年「第4章 障害のある児童への配慮についての事項」

## 小学校 国語科における特別支援教育に関する記述（一部抜粋）

困難さの状態 指導上の工夫の意図 手立て

・自分の立場以外の視点で考えたり  
他者の感情を理解したりするのが困難な場合には、

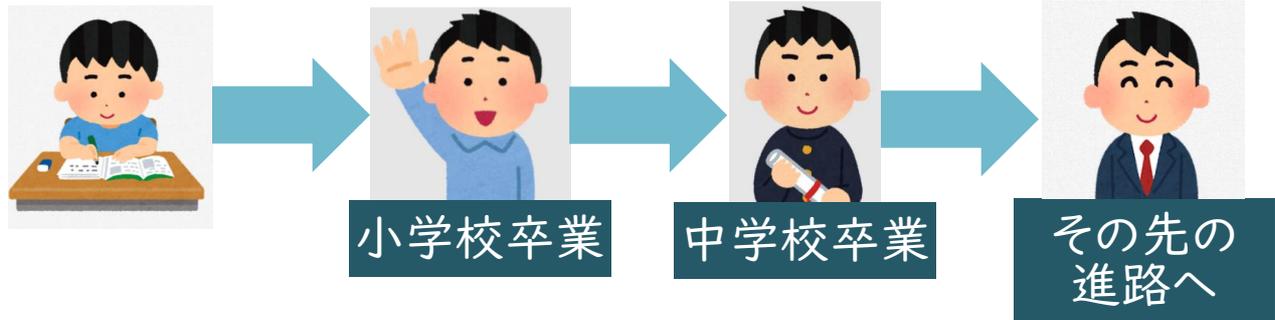
児童の日常的な生活経験に関する例文を示し、  
行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせたり、

気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示したり、  
気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示して  
から言葉で表現させたりするなどの配慮をする。

**教科等の枠を超えて参考になるものが多い**

小学校学習指導要領解説国語編平成29年「第4章 障害のある児童への配慮についての事項」

・なお、  
学校においては、こうした点を踏まえ、  
個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載し、  
翌年度の担任等に引き継ぐことなどが必要である。



個別の指導計画に記載した手立てが、その後の進路先での  
手立てや合理的配慮にもつながる

小学校学習指導要領解説国語編平成29年「第4章 障害のある児童への配慮についての事項」

## 茨城県立高等学校の入学者選抜について

### 特別な措置を必要とする志願者の出願について

○これまでの配慮の具体例

受検者の状況等に応じて  
個別に対応

受検者の状況等	配慮の具体例
視覚に障害のある場合	・ 拡大鏡の持参使用 ・ 問題用紙の拡大 など
聴覚に障害のある場合	・ 監督者の指示が聞き取りやすいような座席の配置 ・ 補聴器の使用 など
読字に障害のある場合	・ 問題用紙へのルビふり など
その他	・ 通常の検査室で受検することが困難な受検者に対する別室での受検 ・ 当該受検者及び保護者の要望により特別な配慮が必要と考えられるもの



花子先生

指導目標、指導内容を検討する際、各教科の学習指導要領解説における「障害のある児童生徒への配慮についての事項」はとても参考になりそうです。

**Point**

ただし、その子にとっての指導目標は何かを見極め、その子に応じた指導の手立てを十分に検討することが大切です。

ところで、特別支援学校(知的障害)の指導目標や指導内容はどのように考えればよいのでしょうか？



### 特別支援学校(知的障害)と小学校・中学校段階との対比

**Point**

小学部			中学部		高等部	
1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
発達初期	幼稚園	小1~2	小2~3	小3~4	小4~6	小5~中1~

筑波大学 米田宏樹「各教科等を合わせた指導の基本」  
茨城県教育研修センター 令和3年度 若手教員〔初任者〕研修講座(特別支援学校)

児童生徒が自立し社会参加するために必要な知識や技術、態度などを身に付けるため、各学部ごとに障害の状態や学習上の特性などを踏まえた目標、内容が示されている。



花子先生

特別支援学校と小・中学校との学びの連続性が考慮されているのです。

特別支援学校が「段階」で示されてるのは対象児童生徒の学力の個人差、個々の実態等に即して、各教科の内容を選択し、指導しやすくするためなんですね。

# 知的障害教育における 各教科の目標及び評価規準の設定

## 個別の指導計画における目標設定の考え方

学習指導要領解説  
各教科等編（小・中学部）



個別の指導計画の目標は、  
**P550～**  
**（各教科の目標及び内容一覧）**を  
手がかりにしながら作成する。  
（左ページは小学部）  
（右ページは中学部）

### 目標・内容の一覧(国語)

学部	小学部		
	教科の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
<b>知識及び技能</b>	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。		
<b>思考力、判断力、表現力等</b>	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。		
<b>学びに向かう力、人間性等</b>	(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。		
<b>段階の目標</b>	1 段階	2 段階	3 段階
<b>知識及び技能</b>	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようになる。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようになる。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようになる。
<b>思考力、判断力、表現力等</b>	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わり	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関

学部	中学部	
	教科の目標	
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
<b>知識及び技能</b>	(1) 日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
<b>思考力、判断力、表現力等</b>	(2) 日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	
<b>学びに向かう力、人間性等</b>	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。	
<b>段階の目標</b>	1 段階	2 段階
<b>知識及び技能</b>	ア 日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようになる。	ア 日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようになる。
<b>思考力、判断力、表現力等</b>	イ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようになる。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようになる。

# 個別の指導計画における目標設定の考え方

## 例) 国語科の目標 (P554～)

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### 目標・内容の一覧(国語)

学部		小学部		
教科の目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。			
思考力、判断力、表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。			
学びに向かう力、人間性等	(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。			
段階の目標	1 段階	2 段階	3 段階	
知識及び技能	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができる。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりする	
		たりしようとする態度を養う。	うとする態度を養う。	

目標が大枠すぎてしまうことがあるので、各段階の「内容」を参考にして、目標を焦点化する。

# 個別の指導計画における目標設定の考え方

## 小学部【国語】1段階の内容

P554～559 を参考にする

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<b>ア 言葉の特徴や使い方</b> (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることに。 (イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。  <b>イ 我が国の言語文化</b> (ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。 (イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㊧ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。 (エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	<b>A 聞くこと・話すこと</b> ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。  <b>B 書くこと</b> ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 文字に興味をもち、書こうとすること。  <b>C 読むこと</b> ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気づき、注目すること。 イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。 エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	国語科の「内容」には、「学びに向かう力、人間性等」に係る指導事項は示されていない。そのため、当該段階の「目標」を参考に作成する。



# 個別の指導計画における目標設定の考え方

## 小学部【国語】Ⅰ段階の内容

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<b>ア 言葉の特徴や使い方</b> (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることを。 (イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	<b>A 聞くこと・話すこと</b> ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	Ⅰ段階「目標」ウ  言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。
<b>イ 我が国の言語文化</b> (ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。 (イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。	<b>B 書くこと</b> ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 文字に興味をもち、書こうとすること。	「～しようとする」「～に取り組もうとする」等
⑦ いろいろなことを知ることを。 ⑧ 筆記具のしくみを知ること。 (エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	<b>C 読むこと</b> ア 教師や、絵本などを見て、示された生き物などに気付き、注目を集めること。 イ 知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。	

「～することができる」「～できる」等

「～しようとする」「～に取り組もうとする」等

内容のまとめり **全てを記入するのではなく、単元の中で今回指導する内容だけ取り出し、文末表現を変え記入する。**

「Ⅰ段階の児童の姿」、Ⅰ段階の目標「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の具体的な考え方については・・・



P81～を参考にする

# 個別の指導計画における目標設定の考え方

## 例) 小学部【国語】Ⅰ段階の目標について作成する場合

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
例) Ⅰ段階内容ア (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることを。	例) Ⅰ段階内容Aア 教師の話や読み聞かせに応じ、 <b>音声を模倣したり</b> 、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	例) Ⅰ段階 <b>目標</b> ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。

文末表現を変えて作成

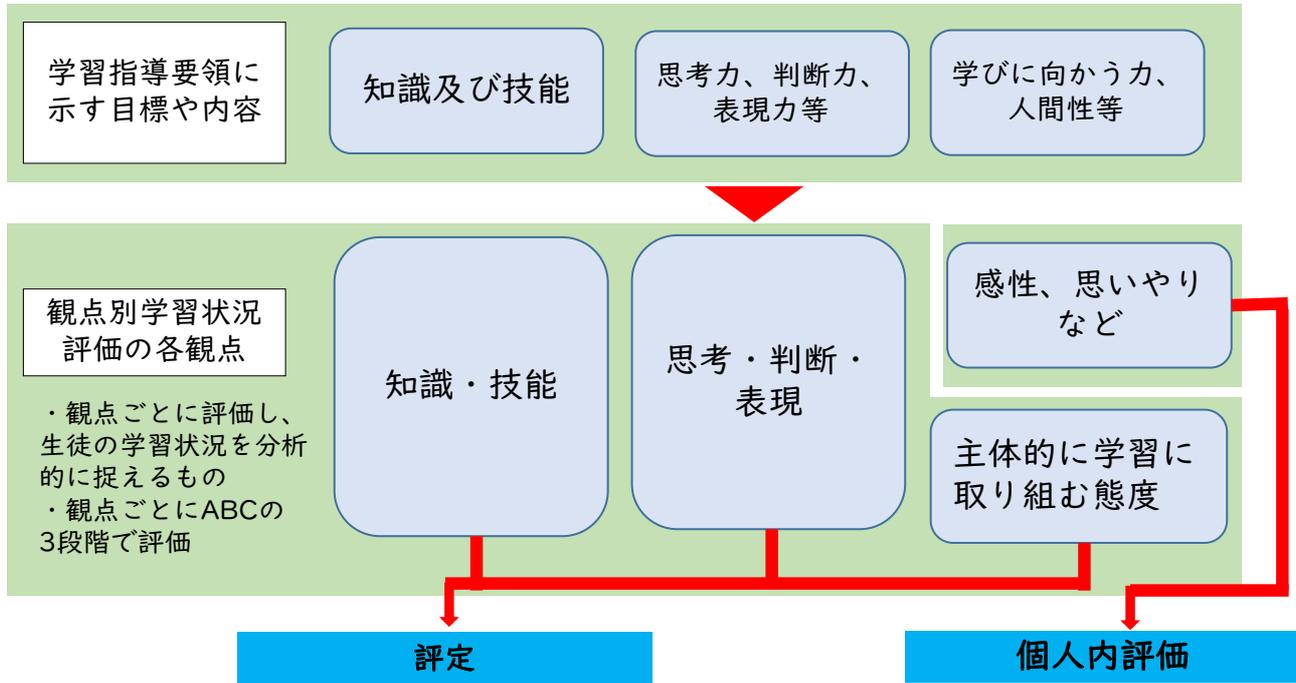
「～することができる」「～できる」等

「～しようとする」「～に取り組もうとする」等

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
例) Ⅰ段階内容ア (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる <b>ことができる</b> 。	例) Ⅰ段階内容Aア 教師の話や読み聞かせに応じ、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現 <b>することができる</b> 。	例) Ⅰ段階 <b>目標</b> ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使 <b>おうとする</b> 。

# 各教科における評価の基本構造

- 各教科における評価は学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- したがって、目標準拠評価は、集団内での総体的な位置づけを評価するいわゆる相対評価とは異なる



- 観点別学習状況の評価の結果を総括するもの
- 5段階で評価（小学校は3段階。小学校低学年は行わない）

- 観点別学習状況の評価や評価には示しきれない児童生徒の一人一人の良い点や可能性、進歩の状況について評価するもの

## 評価規準の考え方

### 小学部【国語】1段階の内容

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>ア 言葉の特徴や使い方</b> (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 (イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	<b>A 聞くこと・話すこと</b> ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	1段階「目標」ウ  言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。
<b>イ 我が国の言語文化</b> (ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。 (イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㊧ 筆記具の持ちくことを知ること。 (エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	<b>B 書くこと</b> ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 文字に興味をもち、書こうとすること。 <b>C 読むこと</b> ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目をし、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。 エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	「～しようとする」 「～しようとしている」 等

単元（題材）の目標の裏返し

作成した「目標」の文末表現を変え記入する。

# 評価規準の考え方

## 例) 小学部【国語】 | 段階の評価規準について作成する場合

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
例)   段階内容ア (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じるができる。	例)   段階内容Aア 教師の話や読み聞かせに応じ、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現することができる。	例)   段階 <b>目標</b> ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする。

↓ 文末表現を変えて作成 ↓

「～している」等

「～しようとする」  
「～しようとしている」等

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
例)   段階内容ア (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを <b>感じている</b> 。	例)   段階内容Aア 教師の話や読み聞かせに応じ、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現 <b>している</b> 。	例)   段階 <b>目標</b> ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おう <b>としている</b> 。

### Point



花子先生

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小・中学部）には、児童生徒の発達段階に応じてどのように各教科等の学習を進めていけばよいのかについて詳しく書かれているのですね。

特別支援学級の個別の指導計画には、指導目標と指導内容、評価等を記載します。

今日分かったことを参考にして、個別の指導計画を見直し、改善していきたいです。

解説は、インターネットからもダウンロード可能です。

## 引用・参考文献

---

- 小学校学習指導要領解説総則編 平成29年7月 文部科学省  
中学校学習指導要領解説総則編 平成29年7月 文部科学省  
小学校学習指導要領解説国語編 平成29年7月 文部科学省  
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 平成30年3月 文部科学省  
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 平成30年3月 文部科学省  
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部） 平成30年3月 文部科学省  
「小・中学校における特別支援学級の教育課程編成ガイド」【改訂第4版】令和4年11月 茨城県教育委員会  
「特別支援学級スタート応援ブック 学級経営編」第3版 平成31年3月 茨城県教育研修センター  
「特別支援学級スタート応援ブック 授業づくり編」第3版 平成31年3月 茨城県教育研修センター  
「自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実践的研究—小・中学校における特別支援学級を中心に—」平成20～21年度 研究成果報告書 平成22年3月 国立特別支援教育総合研究所

## 引用・参考文献

---

- 「特別支援教育のアクティブ・ラーニング」令和元年12月 三浦 光哉  
「『特別支援学級』と『通級による指導』ハンドブック」令和元年8月 田中 裕一監修 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会  
「自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒の適切な教育課程編成に関する実践研究」 令和3年3月 北海道立特別支援教育センター  
「特別支援学校，特別支援学級 知的障害教育のためのみやぎ授業づくりガイド」令和4年3月 宮城県総合教育センター  
「特別支援学級教育課程編成ガイドブック」平成31年1月 群馬県総合教育センター  
「各教科等を合わせた指導」エッセンシャルブック 令和元年6月 名古屋 恒彦  
「確かな力が育つ知的障害教育『各教科等を合わせた指導』Q&A」令和4年1月 名古屋 恒彦  
「知的障害特別支援学校 子供主体の授業づくりガイドブック」令和2年2月 佐藤 慎二  
「実践 生活単元学習 授業づくりのポイントとその展開」 平成30年7月 佐藤 慎二  
「知的障害特別支援学校の自立活動の指導」平成30年11月 下山 直人  
「よく分かる！自立活動ハンドブック1」令和3年10月 下山 直人  
「特別支援学校新学習指導要領を読み解く『各教科』『自立活動』の授業づくり」新井 英靖